

「マッスルインバランスの理学療法」 正誤表

最終更新日：2020年8月25日

第1版第1～3刷に誤りがありました。深くお詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
8	3行目	外転肩 (round shoulder)	肩甲骨外転過剰 * round shoulderは医学的用語でないため削除
10	6行目	肩甲骨挙上(ゴシックショルダー)	肩甲骨挙上 * ゴシックショルダーは医学的用語でないため削除
	図1-2-4	ゴシックショルダー	肩甲骨挙上 * ゴシックショルダーは医学的用語でないため削除
13	図1-2-8	ラウンドショルダー	肩甲骨外転過剰 * ラウンドショルダーは医学的用語でないため削除
21	1行目 タイトル	外転肩(ラウンドショルダー)	肩甲骨外転過剰 * ラウンドショルダーは医学的用語でないため削除
	3,7行目	外転肩	肩甲骨外転過剰
29	5行目	外転肩	肩甲骨外転過剰
		ゴシックショルダー	肩甲骨挙上 * ラウンドショルダーは医学的用語でないため削除
32	3行目 挙上位	ゴシックショルダー、首が短く見える	肩甲骨の挙上、首が短く見える * ゴシックショルダーは医学的用語でないため削除
34	図2-2-5 タイトル	肩甲骨挙上 (ゴシックショルダー)	肩甲骨挙上 * ゴシックショルダーは医学的用語でないため削除
35	図2-2-8 タイトル 図2-2-9 タイトル	外転肩 (ゴシックショルダー)	肩甲骨外転過剰 * ゴシックショルダーは医学的用語でないため削除
36	4行目 図2-2-10 タイトル	翼状肩甲	肩甲骨内旋 (翼状肩甲)
37*	下から4行目 屈曲	上腕骨遠位端に対して近位端が前方	上腕骨近位端に対して遠位端が前方
	下から2行目 伸展	上腕骨遠位端に対して近位端が前方	上腕骨近位端に対して遠位端が前方
38	8行目 平坦	翼状肩甲	肩甲骨内旋 (翼状肩甲)
42*	下から2行目 回旋 原因	前方側股関節内旋外旋、対側股関節外旋内旋、前後方側の腸脛靭帯の過緊張または短縮など	前方側股関節外旋、後方側股関節内旋、後方側の腸脛靭帯の過緊張または短縮など
43	3行目 標準 図2-2-27 説明文	腸骨隆頂点と大転子を結ぶ線が大腿骨長軸と一致	骨盤の前後径の midpoint と大転子を結ぶ線が大腿骨長軸と一致
45	7行目 内反の原因	内側広筋の弱	内側広筋の弱

*第1版第1～2刷のみ

「マッスルインバランスの理学療法」 正誤表

最終更新日：2020年8月25日

第1版第1～3刷に誤りがありました。深くお詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
49	表2-5 腕立て伏せテスト	翼状肩甲	肩甲骨内旋（翼状肩甲）
50	下から2行目 陽性所見	翼状肩甲	肩甲骨内旋（翼状肩甲）
53	8行目 観察ポイント	翼状肩甲	肩甲骨内旋（翼状肩甲）
	図2-3-7 説明文	翼状肩甲	肩甲骨内旋（翼状肩甲）
57	4行目	膝の 内反 を伴う。 原因：大腿筋膜張筋の過緊張、内転筋群の 過活動 、 中殿筋の弱化	膝の外反を伴う（図2-3-13） 原因：大腿筋膜張筋、股関節内転筋群の過緊張、股関節外転筋群の弱化
	7行目	膝の 外反 を伴う。（ 図2-3-13 ） 原因：大腿二頭筋の 過活動 、中殿筋の弱化	膝の内反を伴う 原因：大腿二頭筋、大腿筋膜張筋の過緊張、中殿筋、内側広筋の弱化
86	図3-1-1 タイトル	マッスルインバランスと関節中心化の障害 他	マッスルインバランスと関節中心化の障害
87	下から2行目	このため、筆者が考えるトリガーポイントを各々の筋ごとに記載する。	文章削除 *トリガーポイントは筆者が考えたわけではないので誤解を招くため
96	図3-2-17 タイトル	梨状筋	内転筋
111	1行目タイトル 4、6、7行目 図3-3-16 タイトル	腸骨 稜	腸骨稜
112	1行目 タイトル	転子後面のリリース	大 転子後面のリリース
114	8行目 開始肢位	患者は背臥位で股関節、膝関節を屈曲し、治療者の肩に足部を乗せる。治療者は患者の下方の治療台に腰掛ける。患者の治療側の足部を肩に乗せる。	患者は背臥位。治療者は患者の下方に位置し治療台に腰掛ける。患者の治療側の下肢を股関節、膝関節を屈曲位させ足部を治療者の肩に乗せる。
118	下から9行目 開始肢位	前腕を 胸椎部 の上に軽くおく。	前腕を腰椎部の上に軽くおく。
119	9行目 方法	さらに伸長を加える場合は、患者にベッドの端を持つようにと指示し、上体の回旋を加える。	さらに伸長を加える場合は、上半身を回旋させる。（右側を伸長する場合は上半身を右回旋、左側を伸長する場合は上半身を左回旋する。）
131	12行目 開始肢位	臥位	背臥位
132	7-12行目	三角筋の抑制 ～中略～ 注意する。	文章削除
133	12行目	翼状肩甲	肩甲骨内旋（翼状肩甲）

「マッスルインバランスの理学療法」 正誤表

最終更新日：2020年8月25日

第1版第1～3刷に誤りがありました。深くお詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
135	7行目	下肢を突然話すように	下肢を突然離すように
164	2行目、6行目	外転肩	肩甲骨外転過剰
165	6行目	外転肩	肩甲骨外転過剰
166	5行目	外転肩	肩甲骨外転過剰
167	4行目	外転肩	肩甲骨外転過剰
204	2行目	絞扼	絞扼
204	12行目	外転傾向(ラウンドショルダー)	肩甲骨外転過剰
206	3行目	肩甲骨が挙上・上方回旋する場合をゴシックショルダーという	肩甲骨が過剰に挙上・上方回旋すると呼吸や頸部、肩の障害をおこす
206	図7-2-4 タイトル	肩甲骨の上方回旋(ゴシックショルダー)	肩甲骨の過剰な上方回旋
206	図7-2-5 タイトル	肩甲骨の挙上(ゴシックショルダー)	肩甲骨の過剰な挙上
	下から1行目 弱筋	僧帽筋中部・下部、大・小菱形筋	僧帽筋中部・下部、前鋸筋
208	図7-3-1	腹筋の弱	腹筋の弱
210	図7-3-3	腹筋の過緊張 腹筋の弱	腹筋の過緊張 or 腹筋の弱
211	図7-3-5	肩甲骨固定金の弱	肩甲骨固定筋の弱
212	下から4行目	外転肩	肩甲骨外転過剰
217	4行目	弱筋：弱筋	弱筋：
232	著者プロフィール		追加：Certified Movement Links Specialist (MLS)
	職歴 昭和53年4月	神奈川県リハビリテーションセンター 七沢老人リハビリテーションセンター病院	神奈川県リハビリテーションセンター 七沢老人リハビリテーション病院